

平成23年度「救助技術の高度化等検討会報告書」の概要について

参事官

平成23年度の検討会では、大規模な地震により、建物が倒壊／座屈した救助現場において、他の消防機関からの応援部隊を含めた多数の消防部隊や関係機関が連携した効果的な救助活動のための方策について、「倒壊／座屈建物での救助活動（運用）」をテーマに救助技術の高度化等検討会を開催しましたので、その概要について紹介します。

1 はじめに

発生 of 切迫性が指摘されている東海地震、東南海・南

海地震及び首都直下地震等においては、倒壊／座屈建物での救助事案が多数発生する危険性が予測されています。大規模な地震により、建物が倒壊／座屈した救助現場において、他の消防機関からの応援部隊を含めた多数の消防部隊や関係機関が連携した効果的な救助活動のための方策を検討しました。

検討条件

【想定管轄消防本部の設定】

- ・消防本部規模200人～400人程度

【想定災害規模及び想定救助活動現場等の設定】

- ・震度6強クラス
- ・鉄筋コンクリート6階建て
- ・オフィス等複合用途
- ・1階部分座屈、15名閉じ込め等

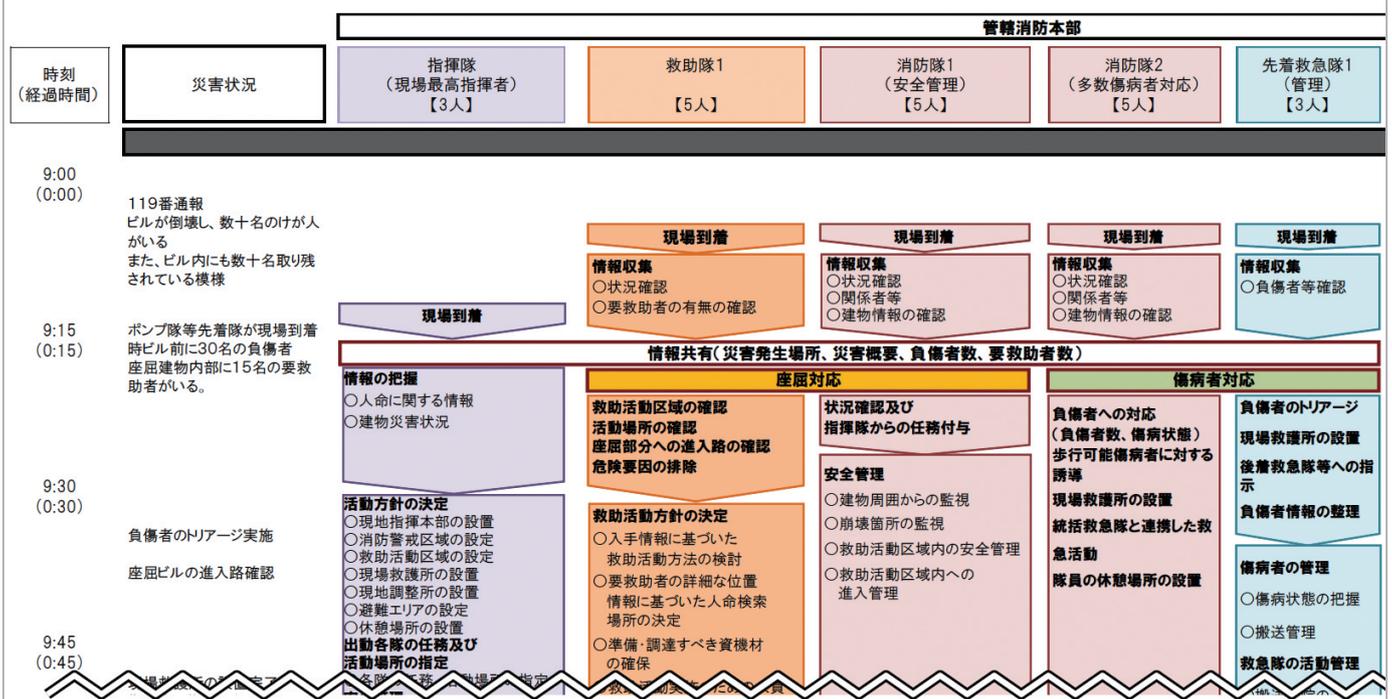
【想定活動隊】

- ・管轄消防本部（想定管轄消防本部）：指揮隊・消防隊・救助隊・救急隊等
- ・応援隊：県内応援隊（陸上部隊・航空隊）、緊急消防援助隊（陸上部隊）
- ・その他関係機関：警察、医療機関、建設業者、行政機関等（想定管轄本部及び応援隊を合計して、60人程度（警察等関係機関等の人数除く。））



<検討の想定>

「救助活動モデル」の作成 【ABCビル救助活動モデルフロー図】



<救助活動モデルフロー図>



ダブルブレードカッターの実地検証



ダイヤモンドチェーンソーの実地検証



倒壊/座屈建物での救助活動に使用する車両及び英国消防大学校訓練施設



(1)情報の把握

出場段階、現場到着、救助活動開始、活動終了までの各段階で確認すべき内容、情報収集先、報告等の情報の把握に関する事項

(2)活動区域の設定等

現場指揮本部、消防警戒区域、救助活動区域、退避エリア、現地調整所、避難場所、休憩場所等

(3)各隊の救助活動

ア 安全管理（各隊共通事項）（安全管理員の配置、監視のポイント、地震警報器の活用等）

イ 労務管理（各隊共通事項）（活動隊員の休憩時間・休憩場所の確保）

ウ 指揮隊の活動（安全管理、各隊の活動状況の把握、警防本部への報告等）

エ 救助隊の活動（救助活動方針の決定、安全管理員の選任、活動ローテーション等）

オ 消防隊の活動（救助隊・指揮隊・救急隊への活動支援）

(4)関係機関等との連携

現地調整所における、消防団、医療関係者、建設業者等との連携・調整事項、調整のポイント等

2 検討の進め方

指揮隊、救助隊、救急隊等の消防隊に加え、医療機関、警察等の活動を時系列で取りまとめ、現実に即した救助活動モデル（6階建オフィスビルの座屈を想定）を作成しました。

検討にあたっては、過去の事故事例、高度救助資機材等の検証結果、英国救助体制の調査結果、国内で作成された先駆的な消防本部の活動要領等を参考にしました。

作成された救助活動モデルを一般化し、標準的な活動内容と留意事項等を示した「救助活動要領」を作成しました。

3 「救助活動要領」の概要

大規模地震による、倒壊/座屈建物での救助活動の特徴である長時間の活動、多数の関係機関による連携活動の必要性、二次災害の発生危険などの条件を踏まえて、活動内容を検討しました。活動ローテーションや建設業者等の関係機関との連携活動、安全管理員の選任などの内容を取り入れました。

主な内容は、次のとおりです。

4 まとめ

今後、各消防本部は、当該「救助活動要領」を参考に、それぞれの地域の状況に合った独自の活動マニュアルを作成するとともに、実効性の高い教育・訓練を実施し、倒壊/座屈建物の救助に係る活動能力の向上を期待します。

※報告書全文については、下記のURLからご覧になれますので、ぜひ参考にしてください。http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/2403/240322_1houdou/01_houkokusyo.pdf